

♪ゲスト講師のみなさまからのメッセージ&アルバムから♪



授業風景

噂の
イタリア料理屋さん



「医療事故から学ぶ、そして防ぐ」

新葛飾病院 セイフティマネジャー 豊田郁子さんから

送っていただいたレポートを読ませていただいて、感動のあまり、言葉にできないほどでした。

こういうお気持ちの医療関係者の方々が、私たち被害者の心を救ってくださっているのです。

素晴らしい出逢いをありがとうございました。



「当事者とともに社会を変える」

特定非営利活動法人・自殺対策支援センター ライフリンク代表 清水康之さんから

みなさんは、ずるい（笑）。

それが、私がこのシリーズに講師として参加させていただいた率直な感想です。

様々な現場の第一線で活動している方たちから、これだけ短期集中的に生の話をまとめて聞ける機会なんてそうはないでしょう。しかも、★

私自身が市民活動を始める時にも、こんな講座があってくれたらと、ちょっと嫉妬してしまいました。みなさんがうらやましいですよ、本当に。

だからというわけではありませんが、次はみなさんの番ですよ。

みなさんがどういう現場で、どんな活動を展開されていくのか。今度はみなさんの問題意識と本気度とが問われてくる番なのだと思います。

社会を構成しているのは私たち市民ひとりひとりであり、私たちひとりひとりが変わっていくことで社会も変わっていきます。しかし、私たちが変わらない限り、社会も当然変わりません。

私自身も、今回みなさんからお寄せいただいた感想等を励みに、これからも自分なりにもがき続けていこうと思っています。自分が理想とする社会の実現に向けて、様々な手段を通して行動していきたいと思っています。

いずれどこかの現場で、今度は実務的なつながりをみなさんと持てますように。

こうした素敵な「つながり」を演出してくださったゆっこさん、どうもありがとうございました！



「見えないことへの想像力」

社会福祉法人・日本盲人会連合 会長 笹川 吉彦さんから

過日は受講いただき誠にありがとうございました。

感想文をお寄せいただき大変良い勉強をさせていただきました。

今後の皆様の一層のご活躍を期待しております。



「社会保障行政における倫理と論理と方法～36年を振り返って」

厚生労働省 前事務次官・辻哲夫さんから

レポート、大変うれしく拝見しました。

退職後デビュー、ステージママ、いや、ステージシスターのおかげで、“無事発車”という感じです。

みなさんのまじめなうけとめに恐縮し、感謝をしております。

行政がもっと倫理を自覚しなければと思いつつ、照れもあり内部で語る



のは控えてきました。

恥も覚悟で、在野で語らねばならないのかもしれませんが。

「臨床試験の倫理／医師の立場」

正しい治療と薬の情報・編集長別府宏樹さん別府宏樹さん、チェコの小さな町スラニーから

私は、今回、新薬の臨床試験というきわめて限られた領域のことについてお話する機会を与えて頂きましたが、全シリーズの資料や受講生の方々の感想を読ませて頂いていると、この特論の幅広さと、その提起する問題の大きさが強く印象づけられました。

講義した者もまた、受講生の方々から多くを学ばせて頂いたことをあらためて実感しています。

このネットワークを継続することが重要だと思います。皆が、これからもいろいろな機会に連携を取り合ってゆければ良いですね。最後に、

★



「臨床試験の倫理／がん患者の立場」

アイデアフォー世話人・中澤幾子さん、
仕事場からで携帯メールで

あの授業は、私にとっても受講してるようなもので、頭の中の「？」

を口にすると、即的確な答えがもらえるという、とても心地よい時間でした。アフター授業も含めて大変楽しかったです。

臨床試験についての皆様のご意見は、実に様々で、かつ捉え方もいろいろであることを実感しました。あの短い時間ですべてを理解するのは難しいことだとは思いますが、皆さんそれぞれの経験などに結び付けて、より身近なものとして捉え、吟味する、という姿勢がみられ、なるほどそういう考え方もありだな、と気づきました。

アイデアフォーでは、今後も臨床試験に関する勉強会やミニ講演会などを企画する予定です。そのときは、ぜひ皆さんにも参加していただき、議論を続けられたらいいな、なんて思っています。

お願いがあります。この授業の内容、プラス受講生の感想を大雑把にまとめたものをアイデアフォー通信に載せたいのですが、可能ですか？ 掲載前にゆきさんに目を通していただくこともあります。発行は一月下旬です。ご検討ください。携帯からで、なおかつ仕事のあいまに打っているので、少し変かもしれませんが、ご容赦を m()m

写真右端は飛び入り参加、おととしのゲスト講師の弁護士、光石忠敬さん

介護の技（ワザ）と医療福祉倫理 生活介護研究所代表・坂本宗久さん から

わあお・・・今回、ありがとうございました。よい
出会いよい状況、すべのセッティングに感謝して
います。久しぶりに興奮して話しました。
皆様の真摯な聴講姿勢に壇上から、感動していま
した・・・

記録・頷き・理解・全てに前向きな姿勢が感じら
れ 11 月 14 日が忘れられない夜になりました
た・・・

皆様のような方々のお耳身を汚す言葉ばかりで
したが、一生懸命聞いてくださって本当にありがとうございました。

ゆきさまの心配りとお誘いの感謝しています。・・・充電して明日も頑張ります。やるぞー



「聞こえない身で病気になること」

千葉県聴覚障害者協会理事長・植野慶也さんから

「医療現場と聴覚障害者」といったテーマのお話をするのは初めてで
あり、小生としまして大変勉強となりました。

皆さんの熱心な視線がひしひしと伝わってきました。このような熱心
な若い方々が近い将来現場に携わるであろうか・・・と思うと、実に頼
もしくも感じられました。

もう少し掘り下げての話ができれば・・・と反省しきりの講演でした。
まだまだ言い尽くせないところがあります。例えば、真っ暗な中での診
察（検査）のケースもあり、このような場面ときは手話通訳や筆談は
役に立たないので、そういった場面になったときはどう対応したらよい
か、皆さんとともに考えて話し合う設定も考慮すべきでした。

聴覚障害を有する精神疾患の方との問診の現場を目のあたりにするこ
とがあり、やりきれない気持ちになることもありました。コミュニケーション障害から来る問題の深刻さ
は、見えない部分であるだけに、いかに皆さんに伝えていくか・・・難しいところがありますが、小生の
話をひとつのヒントとして捉えて、少しでも理解につなげることができればと思っております。

どうぞ頑張ってください。大いに期待しております。



手話通訳・山口千春さんから

学生さんのレポート、お一人お一人の文字を新たな発見の気持ちで拝見させていただ
きました。嬉しかったです。



「遺伝のイメージと倫理」

臨床遺伝専門医・石井拓磨さんから

レポートを拝見致しますと、やはり何よりも当事者の方々が語ることが大切であることを再確認させられますと同時に、こんな私でも、ちょっとは役に立ったものと、幾分、安堵致します。

それにしても、随分といろいろなジャンルの方々が聞いてくださったんですね。それぞれに食いつき場所が違うのもまた興味深いところです。

どのサポートグループも「〇〇（疾患名）

の社会的認知を高める！正しく知ってもらう！」を目標にするようですが、専門医として全体を俯瞰致しますと、個々の疾患の問題にするのではなく（一般の方には一生かかっても学べないほどの病気があるのです）、もっとサポートグループ間の相互理解と横のつながりを強めて「違いを有する人やその家族に対する基本的な理解や社会的な認知の向上」を図り、「必要なときにはいつでもどこでも情報と人（種々の専門家など）にアクセスできる仕組み（米国の Genetic Alliance のような・・・）」を構築しないと、いつまでたっても変わらないと考える今日この頃です。

アルビノ代表の石井 更幸さんから

アルビノという病気はまだまだ知られていません。受講された方のレポートにもそれが書かれていました。それを知って、ますます、アルビノを多くの人に正しく知ってもらうための活動をしていこうという気持ちになりました。みなさんとお会いした日をきっかけに、ネットワークをつくることにしました。これから仲間達と一緒にやって、もっと多くの人たちに正しくアルビノを理解してもらい、アルビノの子供たちや成人した当事者が少しでも住みやすい社会になる事を信じて頑張ります。

今回、受講されたみなさんからも、アルビノを多くの人に知っていただけるように、何かの機会がありましたら伝えて下さると嬉しいです。

私もまだまだ人前で話す事は不慣れですが、もし講演の機会があれば積極的に参加して話していきたいと思いました。今回は本当にありがとうございます。



アルビノの相羽大輔さん（筑波大学大学院博士課程／人間総合科学研究科心身障害学専攻）から

私自身、障害のある当事者のひとりとして、貴重な機会を与えて

くださったことに対しては、心から感謝しております。障害を知ってもらうことは「関わり」への第一歩です。みなさんが知ろうという関心を私たちに示してくれたことは、私達にとってこの上ない喜びです。

今後、お願いすることがあるとすれば、それは次のステップだと思います。やはり知っただけでは、「関わり」の入り口に過ぎない面もあります。実際に関わってみてください。

それはどんな障害者でもどんなマイノリティーの方でも構わないと思います。私達も活動を積極的にお知らせするつもりですので、どうぞよろしくお願い致します。

「福祉と教育そして、自治体を動かす法」

東松山市長・坂本祐之輔さんから

先日は私の講義を聞いていただきありがとうございました。

現在、医療や福祉を取り巻く環境は非常に厳しく、自治体は多くの政策判断を求められておりますが、このような状況の中でも最善の道を探し、未来へつながる魅力あるまちづくりを進めていきたいと考えております。

これから社会へ羽ばたかれる方も、既に社会で活躍されている方も、皆さんはそれぞれ目標・目的を持って大学院生活を送っておられると思いますが、今回の講義が少しでも皆さんの糧となり、それぞれの立場の中で活かしていただければ幸いです。

残りの学生生活、頑張ってください。



「メディアと医療福祉倫理～敬遠・敵対から連帯へ」

ジャーナリスト・大熊一夫さんから

「なぜなぜ」という疑問符を
いつも心の奥に秘め



先入観を打ち捨てて
粘り強く、執念深く
持ち時間いっぱい使い切る
これを実践した人が
あなたのクラスの中にいる
えっ、そっ、それは誰のこと？
えーい、くそーっ、じれったい
それは、★ だーい。

(テレビで文楽の仮名手本忠臣蔵を 11 時間かけて観ていたら頭が七五調になってしまった)

